

アフリカ子どもの本プロジェクト 2014年度活動報告

1、概況

本会も結成10年を迎えました。毎月の運営会や、選書会、フェイスブックでの発信は地道に続けております。しかし、一時は年間10件以上の場所を巡回していた図書展も希望する団体が少なくなっており、2つの会場でしか開催できませんでした。その原因には、今の政権の政策もあって多くの人が内向きになりアフリカの子どもたちへなかなか目が向かなくなってきたことがあると思います。しかし私たちの情報宣伝活動も不足しており、ウェブサイトの更新がなかなかできなかったせいで、活動を続けているのかどうかかわりにくくなっている状態がありました。そのあたりを反省して、今年度の活動につなげていこうと思っています。会員がそれぞれ本業を持っているため、ゆっくりの歩みですが、どうぞ見守っていただければ幸いです。

2、会員数

2013年度末の会員数は104名でしたが、2014年度末の会員数は96名と若干減少しています。

3、2014年度活動報告(2014.4-2015.3)

3-1 運営会の開催

毎月1回運営会を持ち、アフリカへの支援、選書や図書展、イベント等の打ち合わせを行いました。

3-2 アフリカへの図書支援

1) ケニアの2つのドリームライブラリー (別紙写真参照)

アフリカ子どもの本プロジェクトは、現地で活躍していた岸田袈裟さんが副会長を務めるNPO「少年ケニアの友」と協力して、2004年に西ヴィヒガ県エンザロ村に子どものための図書館「エンザロ・ドリームライブラリー」を、2008年にカカメガの森近くのシャンダ小学校の敷地の中に「シャンダ・ドリームライブラリー」を開館し、運営してきました。当初は、開館までの装備(備品、図書)については、当プロジェクトが担当し、開館後の運営は「少年ケニアの友」が行う、という役割分担になっていましたが、「少年ケニアの友」が活動を停止することになったため(現在は奨学生制度については活動を継続しているが、2016年3月には解散)、現在は運営に関する費用(ライブラリアンのお給料、修理費など)も、今は当プロジェクトで負担しています。

エンザロのライブラリアンをお願いしているピーターさんには、週5日半の勤務に対して月7000シル、シャンダのライブラリアンをお願いしているアイリーンさんには、週4日の勤務に対して月4000シルをお支払いしています。シャンダについても、毎日開館したいという希望を持っています。

本来は、ライブラリアンのお給料も含め、地元の人たちに運営をお任せしたほうが良いと思うのですが、二つの図書館があるのはケニアの中でも最貧地域であるため、それがなかなか難しく、将来はそうすることも考慮に入れながら、当面は支援を続けることが必要と考えています。

今年度はドリームライブラリーを実際に訪問して、以下の点をはっきりさせ、今後の支援のあり方を考えてみたいと思います。

- ・村の人たちは、図書館をどう見ているのか?
- ・二つの図書館のライブラリアンには、どんな活動をしてもらったらいのか?

- ・「少年ケニヤの友」の後を引き継ぐはずの現地 NGO であるドレスチコに、今後もライブラリアンのお給料の引き渡しや、現地との連絡係を依頼することが可能なかどうか？ その場合、車の費用なども含め、どのくらいの金額を負担すればいいのか？
- ・将来、村で図書館の運営を担うことが可能になるとすれば、いつ頃のことになるのか？

以下は、ドレスチコからの 2014 年度上半期分の報告をまとめたものです。

① エンザロ・ドリームライブラリー (写真① 別紙)

ケニア西部のヴィヒガ郡エンザロ村にあるドリームライブラリーは、周辺のいくつかの小学校や中学校にも利用されている。

<利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
幼児	322	377	328	337	293	283	1,940
初等教育生徒	288	346	264	322	323	284	1,827
中等教育生徒	112	147	121	149	163	115	807
大人	93	152	118	128	112	208	811
計	815	1,022	831	936	891	890	5,385

<開館日数> 152 日

<所蔵書籍の数> 1,885 冊

<子どもたちの好きな本>

幼児：ABC の本、数の本、認識絵本

初等教育生徒：低学年向けの物語の本、教科の参考書、地図帳、壁地図

中等教育生徒：教科の参考書、地図帳、百科辞典、小説、スワヒリ語の物語

<現地からの声>

- ・図書館に来た子どもたちは、本を読むことを楽しみ、勉強にも役立てている。
- ・さらに本や参考書を増やしてほしい。利用者は図書館とライブラリアンの仕事に満足している。

② シャンダ・ドリームライブラリー (写真② 別紙)

同じくケニア西部のカカメガ郡にある、2008 年にできた子ども図書館で、シャンダ小学校の敷地内にある。

<利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
幼児	150	130	219	177	106	125	907
初等教育生徒	912	1,464	1,323	718	850	730	5,997
中等教育生徒	95	117	122	198	49	42	623
大人	80	107	103	75	73	55	493
計	1,237	1,818	1,767	1,168	1,078	952	8,020

<開館日数> 102 日

<現地からの声>

- ・図書館委員会は開かれていない。→新たな委員会メンバーを選出した。
- ・教科書については、各 1 冊が入っているが、利用する子どもが多いので、初等教育、中等教育とも、少なくとも各 2 冊ずつは入れてほしい。
- ・新聞は毎日取るようにしてほしい。

- ・ライブラリアンのアイリーンは、昇給を希望している。
- ・子どもたちが外で本を読まないように、ベンチやテーブルをもっと増やしてほしい。
- ・窓ガラスが割れたのと床が傷んでいるのを修理してほしい。

2) アフリカとその他の活動

<マラウィ民話プロジェクトへの協力>

2014年11月に岡山、名古屋で開催されたESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) に関するユネスコ世界会議において、かねてより相談を受けていたマラウィ民話プロジェクト実施中のグループが、展示・発表を行いました。ついては、収集した民話ビデオを会場で上映したいとのことで、日本語への翻訳を同グループから依頼され、さくま、細江、佐藤が対応しました。作品は「ナマズとサル」「うたうヤギ」の2本。どちらも5~6分の短い作品で、英語の字幕から日本語に訳し、それを日本の声優が吹き替えて上映されました。翻訳については、アフリカ子どもの本プロジェクトのクレジットを入れてもらい、完成した動画はUSBで受け取りました。同グループは、他にも200本ほどの民話を収集しているそうです。

3-3 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」の選書

◎HPでのリストが古いままになっているので、HPを更新して最新のリストに修正します。

展示本は100冊程度に減らしていますが、HPにはこれまで通り、推薦本全点を掲載することにしています。

○2014年度、選書会開催

- 2月 11冊検討 うち『路上のストライカー』(岩波書店)『戦争がなかったら』(ポプラ社)『マングローブの木~アフリカの海辺を緑の林に』(さえら書房)『古代アフリカ』『古代エジプト』(BL出版)を推薦リストに加えた。
- 3月 『世界のともだち ケニア』偕成社、『ネルソン・マンデラ』すずき出版 を推薦リストに加えた。
- 5月 1冊検討したが、推薦リストに加えるものはなかった。
- 6月 3冊検討 うち『どうぶつの赤ちゃんとおかあさん ゾウ』(さ・え・ら書房)を推薦リストに加えた。
- 7月 5冊検討 うち『ただいま!マラング村』(徳間書店)2刷、『ミルク、こぼしちゃだめよ!』(ほるぷ出版)『くんくんくん おいしそう』(福音館書店)を推薦リストに加えた。
- 12月 6冊検討 うち『世界のともだち 南アフリカ共和国』(偕成社)、『なぞのサル アイアイ』(福音館書店)を推薦リストに加えた。

以上、26冊を検討し、13冊を推薦リストに加えることになりました。

○アフリカへの送本

今年度はありませんでした。

要請があった時に送本するという形で続けてきましたが、今後、会の活動として対外的にアピールするべきかどうか、HPの作り方等に関係してくるので、相談するべきだと思っています。

○ケニアのライブラリアンへ送る資料について

・タンザニアで活動していた鈴木さんにアドバイスを受け、佐藤さんを中心に資料作成チームがすすめています。

2015年8月のドリームライブラリー視察のときまでにまとめられるよう、動いています。

○2015年度に向けて

- ・今後もアフリカ関連の本の刊行が増えそうなので、出来るだけ毎月選書会の時間を持ち、おすすめリストを充実させたいと思います。
- ・選書会に出席できる人が限られてきているので、来年度も地方の会員をはじめ、多くの方に本を読んでもらい、意見をメール等で募り、選書に反映させたいと思います。

3-4 「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」開催

2014年度は以下の2か所で開催されました。

・京都国際交流会館 2014年10月8日～12日 主催：京都子ども文庫連絡会、アフリカ子どもの本プロジェクト 共催：京都市国際交流協会（詳細は別紙）

・大津市立和邇図書館 2014年10月18日～26日 大津市立和邇図書館主催

※次の出版社様から本年度追加の展示用図書をご寄贈いただきました。お礼申し上げます(50音順・敬称略)。あすなろ書房、岩波書店、偕成社、くもん出版、さえら書房、瑞雲舎、すずき出版、徳間書店、BL出版、評論社、福音館書店、ポプラ社、ほるぷ出版、光村教育図書

3-5 支援グッズの製作・販売

活動資金にあてるため、会員の画家（沢田としき、伏原納知子、向井晶子、たかぎちほ）による絵ハガキセット、沢田としき絵の一笔箋、オリジナルTシャツ（沢田としき絵・白黒それぞれS・M・Lサイズ）に加え、『エンザロ村のかまど』（英語版・スワヒリ語版）を図書展やホームページで販売しました。

3-6 ホームページの更新

これまでインターネットでの情報発信としては、メールによるプロジェクト・ニュース配信の他にホームページとブログ、Facebook (<https://www.facebook.com/africachildrenbooks>) を利用しています。Facebookページは、情報を頻繁に発信することが容易にでき、会員・非会員の方々に手軽に見てもらえるという利点があり、2015年5月31日現在、「いいね！」をクリックして下さった方は278名で、会員数よりもずいぶん多くなりました。日本各地だけでなく、アメリカ、ケニア、ドイツ、オーストラリア、インドネシアといった海外からもアクセスがあります。

Facebook ページでは、「おすすめ本」から週1冊ずつを紹介している他、ドリームライブラリーの様子や展示会の開催案内など本プロジェクトの活動に関わる情報、広くアフリカに関する情報などをアップしています。

現在、ホームページとブログ、Facebook の役割を吟味して、それぞれの連携や整理統合をする準備を進めています。「おすすめ本」リストの更新をはじめとして、プロジェクトに関する最新の情報をすみやかに発信できるよう、また、会員の皆さんの意見を聞いたり相互交流ができるよう、ホームページ作成の専門家のアドバイスを受けながら体制整備を図っているところです。

3-7 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

電子メールを使って、運営会の報告、新会員の紹介、ケニアのドリームライブラリーの様子その他を会員向けに14回発信しました。

4、会計報告（2014.4.1～2015.3.31）

（省略）